

今さら聞けない#42・「複眼の思想」で「蛻変」

1. 「柔軟に発展」

今年の干支は右掲のように「巳」年ですが、乙巳(きのとみ)で「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年と言われています。つまり、プラス発想すると「再生や変化」を失敗を恐れずにチャレンジする事になります。例えば、いろんな場面で Old メディアが New メディアに圧倒されたように、今までの常識が通じなくなっています。私の場合、Old メディアタイプなので、スマホは携帯電話の延長線上の利用、即ち、かけ放題と写メールが主で、たまにLINEでコミュニケーションする位で「ガラ携」のままで、情報は主に新聞やTVに依存して来ました。



しかし、アメリカの大統領選や兵庫県知事選で Old メディアの報道とかけ離れた結果が出て、Old メディアの弱点を露呈、例えば、兵庫県知事選では「道義的責任」の一点張りでワイドショーは大谷ブームの後の視聴率確保に躍起になったが、それに呼応するコメンテーターが登場して、うんざりする一面的な論点を実しやかに報道したのです。選挙結果は若者の投票行動が Old メディアとは真反対でトランプ氏や斎藤氏が勝利したのです。これは昨年の流行語大賞の「ふてほど」のように「昭和」と「令和」のような価値観のギャップで、マスメディアが衰え台頭著しいネットを中心としたパーソナルな情報発信が威力を発揮した結果と言われています。

ところが、New メディアには恐ろしい「フィルターバブル」(検索履歴やクリック履歴でユーザーが見たい情報ばかりが送られるので、それ以外から隔離されて自分の価値観の世界‘バブル’の中に孤立する)という現象があり、偏向した情報しか届かない事を自覚して、私の場合、老害を意識して「ふてほど」にならないように反対側の情報にも注意する必要があります。

元に戻って、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年という事ですが、故今西錦司先生(京大、霊長類研究所)は登山家としても創始者の活躍された方ですが、若い時に講演で「登山にはルートは一つでなく、いろんな方法があり手段も選べる」とおっしゃり、目的は一つでも方法や手段は幾通りもあり「偏向」しないで柔軟に幅広く見る事が大切と教えて下さいました。

2. 「木」と「森」

「トヨタ複眼の思想」という言葉があります。私がトヨタ系販売店に入社する頃は米国のマスキー法に代表される排ガス規制が大きな課題でしたが、ホンダの CVCC など他メーカーが発表する中、トヨタは他社の技術も購入する状況で入社前なので不安でした。しかし、トヨタは排ガス対策を触媒方式にして大量生産したという事がありました。その頃、トヨタは「複眼の思想」を掲げてPRしており、研究開発の理念を示していました。確かに、他社より桁違いの研究開発費であり、グループのデンソーなどもQRコードなどを開発・公開して世の中の発展に貢献しています。

「森の経営」と言いますが、「木」単独の保水力や炭酸同化力は小さなものですが、「林」となり「森」と多くなるとその威力は絶大な物になります。いろんなジャンルの研究者がいる程、研究開発に威力を発揮するのは想像に難くないものです。違った視野から見ることは大切で、故今西錦司先生(京大、霊長類研究所)は登山家としても創始者の活躍された方ですが、若い時に講演で「登山にはルートは一つでなく、いろんな方法があり手段も選べる」とおっしゃり、目的は一つでも方法や手段は幾通りもあり「偏向」しないことが大切と教えて下さった事を思い出しました。

また、勤務したトヨタ系販売店の故福井社長は、私が「うちも IC カードを導入して顧客サービスをしたい」と話した時に「棚野君、それが全てではない」と返事されて、私は、その後、テレマーケティングのシステムを構築して、「セルシオを買いに行く」という情報を営業所に即刻フィードバックして「アリスト」を買って頂いたという伝説をつくりました。

本来、「森の経営」は一本の木は寿命で枯れても次々と新しい木が育って全体として栄えるという事を意味しますが、逆に見れば、一本の「木」を大切に「長所伸長」すれば、それぞれの個性が発揮されて、全体として「森」となり青々と繁ることになるのです。多くの研究の中から、最適解を選び出す「複眼の思想」と少しオーバーラップします。

3.「複眼の思想」

第一項で、今年は「巳」年で、乙巳(きのとみ)にあたり「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年」と書きました。再生や変化しながら柔軟に発展する事が大切ですが「試行錯誤」を覚悟することも大切です。「複眼の思想」は多くの候補から選び出すという事ですが、その方法でも「試行錯誤」が必要なので「余裕」が必要になります。私自身は昨年75才になり「後期高齢者」になりましたが、元気に生きて行くという意味でも再生や変化しながら柔軟にアンチエイジングする必要があります。

先ず、「再生」という点では何よりも3年前の大手術で体力を落として様々な弊害が出ましたが、ようやく、元に近い状態になって来ました。これからはアンチエイジングで「老化」に抗う努力が大切です。「健康」＝「運動」x「食事」x「社会」と公式化していますが、それぞれに課題がありますが、持続できる事を優先して、「運動」では徒歩と自転車、「食事」では自炊と青汁、「社会」では喫茶店のモーニングや地域活動などに取り組みたいと思います。

次に、「変化」という点では7月に創業30周年を迎え、予定通りに事業承継するという大きな課題があります。今までは創業者オーナーで景気の荒波に揉まれて来ましたが、近年はようやく落ち着いた状況で事業承継に向けて財務力の回復が少しずつ功を奏しています。よいポジションから事業を引き継いで頂けるのは最幸の喜びとお客様に感謝しています。そして、影の役割として事業に必要な総務的な仕事を行うことで新しい貢献の道としたいと思っています。

故福井社長から「池の魚、川の魚」の喩えを教えて頂きました。慣れた仕事に安住する「池の魚」にならないように、何かにチャレンジする「川の魚」の状態を維持したいと思っています。とりあえずは「自転車」です。6段変速の自転車を買いましたが、行動範囲が限定されています。休日には少しずつ距離を伸ばして行動範囲を広げて「変化」をつけたいと思います。

4.「蛻変」という発展

「蛻変」は「卵から蛹になり脱皮して成虫」になることですが、現状から脱皮することが永遠の課題です。前項で自動車を廃車して6段変速の自転車を買ってヘルメットを被って颯爽と風を切る姿になりたいと思っています。「想いは現実化する」と言いますが、最初は40年ぶりなのでママチャリタイプですが腰をかけ右足でフレームを跨ごうとしたら痛かったのですが、慣れるとすんなりと跨げるようになりました。変速にも慣れて、適切なギアを選べるようになりました。あとは行動範囲を広げるだけです。「自転車」という変化で行動範囲を広げる「発展」を期したいと思っています。

つまり、「何か」をしようと思ったら「成功のイメージ」を描いて、まず「着手」する事が大切です。慣れない未知のことに着手するには「出来る事」から始めることがポイントで「出来た」という小さな「成功体験」が次への「流れ」を作ってくれます。この「流れ」が定着すると勢いを増して夢中になります。「フロー」から「ゾーン」になり時間の経過も気にならなくなります。しかし、「効果逓減の法則」があるように「遊び」がドンドン薄れて「当たり前」になって行きます。いわゆる「マンネリ」となるのですが、意図して企画して新しい「遊び」を生み出すようにするのが長く持続するコツです。私は「自転車」でも行きたい場所を増やして、例えば、美味しい喫茶店などを見つけて行動範囲を広げたいと思っています。

今年7月に満76才で数え年なら「喜寿」になります。人生の節目の一つですがカウントダウンではなく、ささやかでも発展する意欲を持ち続けたいと思います。私は、以前よりフレイル対策を「健康」＝「運動」x「食事」x「社会」として来ましたが、ベースは「運動」です。「自転車」という手段を手に入れたので「運動」を通して行動範囲を広げる「発展」を目指し、颯爽とした「老人」になれるように願っています。ささやかな「蛻変」ですが、持続できるように「食事」や「社会」にも配慮して実践できる変化を追求したいと思っています。6段変速の自転車を乗りこなす「元気なお爺ちゃん」を夢見ています。